

令和5年度 学校経営計画・自己評価書

足立区立中川北小学校

校長 加瀬 幸司

1 学校教育目標

○進んで学ぶ子 ○思いやりのある子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○だれも一人ぼっちにはさせない学校 ○6年生があこがれの存在である学校 ○いじめは絶対に許さない学校
○児童像	○自ら調べ、考え、学び合う喜びを味わえる児童 ○仲良く助け合い、思いやりのある心情豊かな児童 ○明るくたくましく健康で最後までやりぬく児童 ○あこがれの存在である6年生
○教師像	○一人一人の子供をどこまでも大切にし、温かい人間関係の中で一緒に成長する教師 ○わかりやすく楽しい授業の創造を根幹とした確かな学級経営を行う教師 ○基礎学力の定着を確実に図れる指導力をもつ教師 ○法令を遵守し、学校経営方針や働き方改革を踏まえ、互いに貢献しあえる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

○児童について

- ・素直で人なつこい。指示されたことや決められた仕事はやり遂げようとする気持ちがある。
- ・基礎学力定着が不十分な児童が多い。

○保護者、地域について

- ・教育活動に協力的な保護者が多い。基本的生活習慣を身に付けさせている家庭と、不十分な家庭との二極化が見られる。
- ・開かれた学校づくり協議会を中心に、土曜事業（習字、茶道、切り絵、太鼓、木工）の指導に積極的に取り組んでいる。
- ・学区の7町会は、町会長を中心として、学校の教育活動に大変協力的であるが、高齢化や多忙から、開かれた学校づくり協議会への参加率も低く

なっている。

○教師について

- ・ベテラン教員の比率が低く中堅教員育成と若手教員育成が急務となっている（本校初任者が9名 平均年齢 33才）。

真摯に児童の成長を願い、個々の児童の状況に応じて丁寧な指導・対応ができる教師集団である。

- ・OJTだけでなく、校外の研究会への積極的参加を促し、授業力向上を図る必要がある。

＜前年度の成果と課題＞

○学習面

- ・学力向上アクションプランによる指導を徹底し、基礎学力が定着させては来ているが、児童の学習意欲の向上は不十分である。

区学力調査の結果は下降傾向となっている（2-6年の全体通過率 国語 R3 84.9→R4 77.4%=-7.5 算数 R3 91.1→82.0%=-9.1）。目標値未達の3割強の児童の底上げと、全体の学力向上が重要課題である。

○基本的な生活習慣の確立について

- ・あいさつは、6年生を中心とした自主的な取組が不十分であったが、今年度も挑戦していく。心のこもったあいさつ、よい言葉遣い、提出物や学習用具の準備・忘れ物の減少、学習ルールの徹底を継続し定着させていく。（遅刻が毎日30人近くいることも課題である。）

○心の教育の充実について

- ・自他の区別なく「心を傷つける」「体を傷つける」言動については学校全体で厳格に指導する。自分が言われたりされたら嫌なことは、やらない判断・とめる勇気をもてる子供を育てる。
- ・いじめ未然防止を徹底し、同時にいじめ未解決、新たな不登校0を継続させる。

6年生を中心とした「各行事や兄弟班活動において仲良く一生懸命に取り組む姿勢」がいじめのない雰囲気づくりにつながった。今後も継続させていく。

○働き方改革の一層の推進を目指す。

- ・ボトムアップで業務遂行の工夫をし、心身ともに健康な教職員の明るい職場にする。

○感染症拡大防止の対応を意識高くして継続する。

- ・基本的な衛生管理を徹底するが、屋外や会話をしない場面でのオフ・マスクを推奨する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン（学習内容の定着と考える力の育成）	○	○	○	○	○
2	思いやりと支持的な風土のある学級・学年づくり（学級・学年経営）	○	○	○	○	○
3	幼保小中連携強化による児童・生徒の健全育成・資質の向上、学校・家庭・地域連携による子育て推進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－Ⅰ		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的学習内容（音読・漢字・計算）の定着をめざすとともに、分かりやすく考えさせる授業の工夫・改善		国語 77.4%→79% 算数 82.0%→84%		国語 77.4%→80.0% 算数 82.0%→86.3%		目標はクリアしたが、引き続き国語には課題が残る。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
新規	俳句教室	国語	通年	講師を招いて講座の受講心の豊かと語彙力向上	問題行動の減少、区学力調査の結果	平均を超えること	平均は超えられず。	語彙力は向上してきている、継続が必要。	△
継続	放課後寺子屋学習	算数 国語	火～金週 4回 30分	副校長・地域協力者等	家庭学習提出率増加	全学級家庭学習の提出率 80%	良好。	大人にほめてもらえる環境づくりが大切。	◎
新規	朝学習	計算 漢字	月火木金 週4回 朝 8:20～15分間	・各学級担任がモジュールによる授業を行う	区学力調査の通過率	平均を超えること	基礎基本の定着に功を奏した。	継続することが必要。	◎
新規	百人一首教室	国語	休み時間	校長室で、百人一首に親しむ	大会で上位入選	3位以内に入賞	健闘した。	継続が必要。価値ある取り組み。	△
継続	放課後補習教室(学級)	国語・算数 家庭学習・授業補習	放課後 15分以上	・各学級担任 ・月・火・木・金の放課後 30分 ・授業で把握した課題	毎回達成度を担任が確認	全学級家庭学習の提出率 80%	児童に好評。	授業後に確実に実施するよう改善する。	◎

継続	サマースクール(図書館の開館と連動)	未通過児童(各学年10名程度)	夏季休業中10日間×50分	担任・専科+図書担当2名既習内容の振り返りと問題の時直しを少人数指導で進め、学力調査内容	夏季休業終了後の確認テストを実施	対象児童の確認テスト正答率10%UP	過半数の児童で正答率向上。	継続することが必要。	○
継続	中北小読書奨励賞	国語読書活動	5月以降	校長・各学級担任による通年奨励	区立図書館「読書通帳」の達成度合(各児童)	区学力意識調査「1月に2冊以上本を読む」80%	区で上位4分の1に入る利用率。	継続していく。	◎
継続	調べる学習コンクール	国語読書活動総合的な学習の時間	5月～10月	2学年以上の各学級担任による指導(学年枠での内容を統一させて推進)5・6年:夏季休業中の必須提出課題(他は自由課題)	各学年での取り組みを通して学年2本以上のコンクール出品	左記同様	主体的に取りくめている児童がよい作品を提出。	より多くの児童に参加をさせたい。	○
継続	家庭学習定着への取組	各教科学年×10分間以上	毎日	各学級担任により家庭学習の提出率及び達成度の確認	家庭学習の提出率及び達成度の確認	全学級家庭学習の提出率80%以上	長期休みの提出率には課題あり。	タブレットを用いて常に周知を図るようにする。	○

重点的な取組事項－ 2		思いやりと支持的な風土のある学級・学年づくり（学級・学年づくり）			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
荒れのない思いやりのある学級・学年づくり及び、進んで挨拶のできる児童の育成を推進する。		目標実現に向けた取組の実施結果が、3項目とも達成基準以上	多くのクラスで安定して学級運営が図れていた。	授業態度が改善されない学年に重点的な指導をする。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
思いやりと支持的な風土のある学級・学年づくり	・児童の自己肯定感アンケート結果の平均が80%以上 ・学級の荒れ未然防止、いじめ未然発生防止と初期対応の充実	・教師の人権感覚チェック表の活用 ・きょうだい班活動、兄弟学年による異学年交流の推進 ・いじめ防止委員会、全職員による即時各学級支援	いじめの認知件数は、昨年より増加したが、それだけ児童の心を受け止める機会が多かったことを表している。	引き続き、ふれあいあいの機会を設定し、あたかい学校づくりに努める。	◎

進んで挨拶のできる児童の育成	・学校評価アンケートの挨拶の項目が 80%以上	・登校時・校内での教書員・6年生による挨拶の声かけ ・家庭への挨拶運動協力要請	保護者の協力を得ながら、さらに改善したい。	保護者ボランティアの継続を図る。	○
温かな環境づくり	・年 2 回実施の Q-U テストの不満足群の減少	・各学級におけるあったか言葉の使用 ・「さん」づけの徹底	担任の取り組みが結果に結びつきつつある。毎日の基本はあたたかいクラスづくりである。	分析結果の見える化を図る必要がある。	○

重点的な取組事項－ 3		幼保小中連携強化による児童・生徒の健全育成・資質の向上、学校・家庭・地域連携による子育て推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携・小小連携による健全育成・資質向上、学校・家庭・地域の連携による児童の家庭学習習慣・家庭生活習慣の定着		目標実現に向けた取組の実施結果が、2項目とも達成基準以上	小 1 ギャップは年々ひどくなるが、担任の努力とスキルで乗り越えた。	中一ギャップにも改善を図っていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中・小小連携の推進による健全育成・資質向上	・児童の交流活動は、具体的方策を複数実施 ・小中、小小連携で校内研修に 6 回参加実施	・児童・生徒の交流活動の実践 ・小中連携による校内研究を行う。	授業を通して、会話ができた。	来年度、公開授業数を増やしたい。	○
家庭生活習慣・学習習慣の定着	・年 3 回の「生活チェック表」生活点検達成率 85%以上 ・宿題の提出率の達成平均 90%以上	・「いきいきカード」を活用し、「早ね・早起き・朝ごはん」について家庭との連携指導 ・家庭学習時間＝学年×10 分の取組と宿題内容の工夫・改善（タブレット活用の促進） ・タブレットによる情報発信	遅刻は毎日 30 人、改善が全く図れなかった。家庭に呼びかけることにも、これ以上の工夫が見つからない。開かれ協議会の力を借りて時間が守れる家庭づくりに視点を置きたい。	遅刻者を 0 にする取り組みを行う。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプラン

取り組みの精度を高めるよう、授業の工夫を校内研究を通して継続する。

AI ドリルのさらなる活用と家庭学習時間の充実を呼びかける。

イ 思いやりと支持的な風土のある学級・学年づくり

WEBQU の十分な活用と、６年生を中心にした学校づくりの中で、どの子も安心して過ごせる学校にする。

担任が十分にエネルギーをもって笑顔で児童の前に立てるよう、応援をお願いしたい。

ウ 幼保小中連携強化による児童・生徒の健全育成・資質の向上、学校・家庭・地域連携による子育て推進

小１段階での不適応を早急に改善できるよう、入学前の十分な保護者との連携を図ること。

中学校での不適応を最小限にするために、進学自覚を高めた６年生への指導の充実。

(２) 保護者や地域へのメッセージ

運動会での子供たちの輝く姿、保護者、地域の皆さんの「ルールよりマナーで」参加してくださった姿、教職員の工夫や努力。

この日が中北の姿を象徴的に表していると考えています。学校はあこがれの存在である６年生を中心に、ますますワクワクする学びの場になりますよう、ご一緒に過ごして参りましょう。

(３) その他（教育活動全般について）

学力も体力もそして心の力も確実に上向いています。

中北を支えてくださる保護者、地域の力のおかげです。働き方改革を進めながら、

教職員が笑顔で子供たちの前に立てるようにして参ります。

引き続き応援をよろしくお願いいたします。